



福島「帰れない」家をおもう

帰還困難区域の今を知るトークイベント

第3回



photo/解体した自宅の茶の間があった辺りに立つ今野さん

今野さん、「一筋の光」を見る

東京電力福島第一原発事故から15年。避難指示が出された福島県浜通り地方などの12市町村は全ての自治体で居住が可能になったものの、その中で今も県土の約2.2%に当たる面積が放射線量の高い帰還困難区域に指定されています。

目に見える「復興」の陰で、除染が進まない同区域に今も多くの家屋が取り残され、荒れるに任せている現実があります。

帰還困難区域に家のある避難者の一時帰宅に同行、ルポしたパネル展「原発事故15年 福島「帰れない」家 帰還困難区域の今」にちなみ、同展に登場する浪江町津島地区の今野実永（みのぶ）さんに、失った家や古里に寄せる思いを語っていただきます。



浪江町/今野 実永さん

東北学院大大学院2年、
「南津島の田植踊」継承者

2002年、浪江町生まれ。小学2年生の時に被災し、避難先の小中学校で過酷ないじめを受けるが、郷土芸能「南津島の田植踊」と出合って克服する。大学では民俗学を専攻、学生たちと地元保存会を結び付け、田植踊を次代に継承するプロジェクトを立ち上げた。「絶望の先に光の筋が見えた」という。

2026

8/2日

参加無料

14:00スタート

桜川市生涯学習センターさくらす

茨城県桜川市東桜川一丁目21番1号 TEL:0296-71-7702

※本事業は、福島大学が受託する福島県委託事業として実施します。



申し込みはこちらから

<https://x.gd/Nlssr>

会場参加かオンライン参加を選べます

当日参加も歓迎

主催
お問い合わせ

福島大学地域未来デザインセンター 相双地域支援サテライト

〒979-1111 福島県双葉郡富岡町中央2丁目83 とみおかワーキングベース2 TEL:0240-23-6675 e-mail: r411@ipc.fukushima-u.ac.jp

共催

桜川市生涯学習センターさくらす、東日本大震災・原子力災害伝承館